

# 北海道新聞

2016年  
2月28日  
日曜日

発行所  
北海道新聞社

〒060-8711 札幌市  
中央区大通西3丁目6  
電話011-221-2111  
dd.hokkaido-np.co.jp

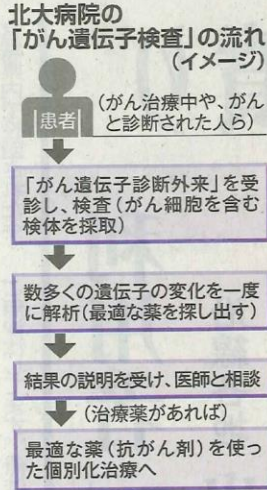
読者センター  
011-210-5888  
(日曜・祝日除く9時~16時)  
ご購入申し込み  
0120-464-104  
ヨムヨムドーション

## 北大病院 4月から最先端検査

### 遺伝子調べ 抗がん剤 最適に

#### 道内初

北大病院（札幌市北区、宝金清博病院長）が、がん患者が持つがん関連の遺伝子の変化を一度で網羅的に調べる「がん遺伝子検査」を4月から始めることが27日、分かった。個々の患者に最適な薬（抗がん剤）を探ることができる最先端の検査で、自分に効かない薬による治療で苦しむ患者には朗報だ。道内初の導入で、国内でも京都大、岡山大の両病院に次ぎ3施設目。遺伝子情報に基づき、がんの個別化医療が道内でも実現する。



27日に札幌で開かれた北海道癌治療研究会の学術講演会で、北大大学院の西原広史特任教授(探索病理学)が明らかにした。がん細胞に起きる遺伝子の変化は、同じ部位のがんの患者でも人によって違いがある。一方で近年、どの遺伝子の変化に、どんな薬が効くのかが解明されつつある。遺伝子の変化を網羅的につかめれば、一人一人

に最適な薬を見つけれられる。従来は自分に効かない薬とは分からずに治療を続け、治らないうえに副作用に苦しむケースもあった。今回始めるがん遺伝子検査は、保険診療が適用されないため、自由診療となる見通しだ。北大病院は検査費をまだ公表していないが、京大病院は約88万円、岡山大病院は約100万円。検査開始に合わせ、北大病院は専門の「がん遺伝子診断部」と「がん遺伝子診断外来」を新設する。検査対象はがん治療中や、がんと診断された患者ら。患者から取ったがん細胞を含む検体を、院内にある遺伝子解析の最新機器(次世代シーケンサー)で調べる。結果の説明を受けた患者は、医師と相談して治療薬を選ぶ。その薬が保険適用の対象であれば、健康保険

を使える。ただ検査を受けても、患者によっては有効な薬の情報が得られない可能性もある。また、その患者に効果的とされた薬が未承認の場合は、治療費は自己負担となる。一方、北海道がんセンター(札幌市白石区、近藤啓史院長)によると、同セン

ターは北大病院と連携し、4月以降、がん遺伝子検査の専門外来を設ける。北大病院は将来、こうした連携先を道内各地のがん拠点病院にも広げ、全道で

最先端のがん医療が受けられる体制づくりを目指す。北大病院と道がんセンターは、がん遺伝子検査の詳細を3月2日、東京で正式に発表する。